

変わったよ!!

東谷津ほとけじょうの里



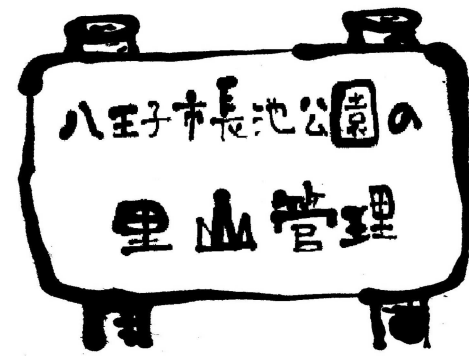
埼玉県NPO助成金で「東谷津ほとけじょうの里」に素敵な看板が出来ました。この山道を通る人たちに里山保全活動の理解が深まってきています。



「てんたの会」のリーフレットが新しくなりました。天覧山周辺の案内地図や写真が素敵と好評です。(埼玉県NPO助成金で作成)やませみ誌と一緒に、上記看板の所にも常時置いてあります。



「東谷津ほとけじょうの里」の一角に堆肥囲いが完成！カブトムシがたくさん産まれるといいナ。



本年1月、同じモニタリング1000里地調査を行っていることが縁で、八王子市長池公園を視察に訪れました。里山管理のため参考となるが多かったので、ここで報告させていただきます。



会員:大石 章

長池公園は、多摩ニュータウン整備に当たって、住宅都市基盤整備公団(現UR都市機構)が貴重な自然が残る約20haの里山を公園として整備したもので、その中に体験学習施設として自然館も建設され、現在公園は八王子市に移管され、指定管理者・ひとまちみどり由木(NPO法人フュージョン長池+造園、電気設備会社)が他の80以上の公園緑地とともに管理しています。

立入禁止でサワギキョウ等の生物を保全している特別保全ゾーン、観察ゾーン、体験ゾーンなどに分けるゾーニング管理がなされ、会員制の長池里山クラブ(会員200名以上)による米・野菜づくりや炭焼き、周辺の小中学校~大学の利用・連携、毎月第2金曜日の自然観察会などが行われています。

御案内いただいた小林健人副園長は、植物や野鳥の専門家ですがまだ30代の若さで、他にも4人の若い職員がいて、中核の活動を若者が支えている希有なNPOになっています。こうしたことが可能なのは、事業型のNPOとして人的体制整備がされているからです。福祉系のNPOは行政から事業受託を受けることが多いため事業型NPOが複数ありますが、自然系NPOは数少ないのが現状です。



自然館(NPO法人フュージョン長池提供)



里山クラブが耕作する畑

この公園は、国土交通省から公園管理のモデルとして紹介されているほど有名ですが、予算制約の中、工夫を重ねてやりくりしているのが現状のようです。

スタッフが少ないため、副園長のように素晴らしい能力があっても直接事業を行うことは控え、できるだけ地味な管理業務に注力し、コーディネート力で運営を回しています。イベントや展示をできるだけ市民や協力団体にやってもらう。子供たちを受け入れる場合は何か作らせてそれを展示に活用する。落ち葉溜め等を作ったらその意義がわからない人が多いので説明板を掲げ自然学習に活用する。笹藪は全部刈り払えないので、散策者に圧迫感がない程度の距離で刈り払いを止めています。グッズ販売を最近始め、収入確保

に努めています。また、利用者が少なく目の届きにくいような緑地では、タマノカンアオイという希少植物がプロの業者により盗掘(別系統のカンアオイに植え替える)されている事例もあるという酷い話も聞きました。

少ないとはいえスタッフが充実しているのは、他の80以上の公園緑地管理をまとめて受託するという思い切った決断をしたためです。その全事業費をうまく使って地域と公園の共生、さらに自然保護もバランスをとりつつ進めているという印象です。

天覧山でこんな風にできたらいいなと思える体制、工夫がたくさん見られ、大変勉強になりました。

小林副館長の案内で体験ゾーンへ



